

本学では、アセスメント・ポリシー（学修成果や成績評価における目的、達成すべき質的水準評価の実施方法等）について下記の通り定めている。

学修成果の査定により得られたデータは、「学校法人松翠学園 個人情報保護規程」を遵守し適正に扱う。

I. 学修成果の評価とその活用方法の流れ

滋賀文教短期大学は、ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの3つのポリシーに基づいて、教育研究活動の向上及び改善のため、機関レベル（大学）、教育課程レベル（学科）、科目レベル（各授業）における学修成果を多面的に査定する。

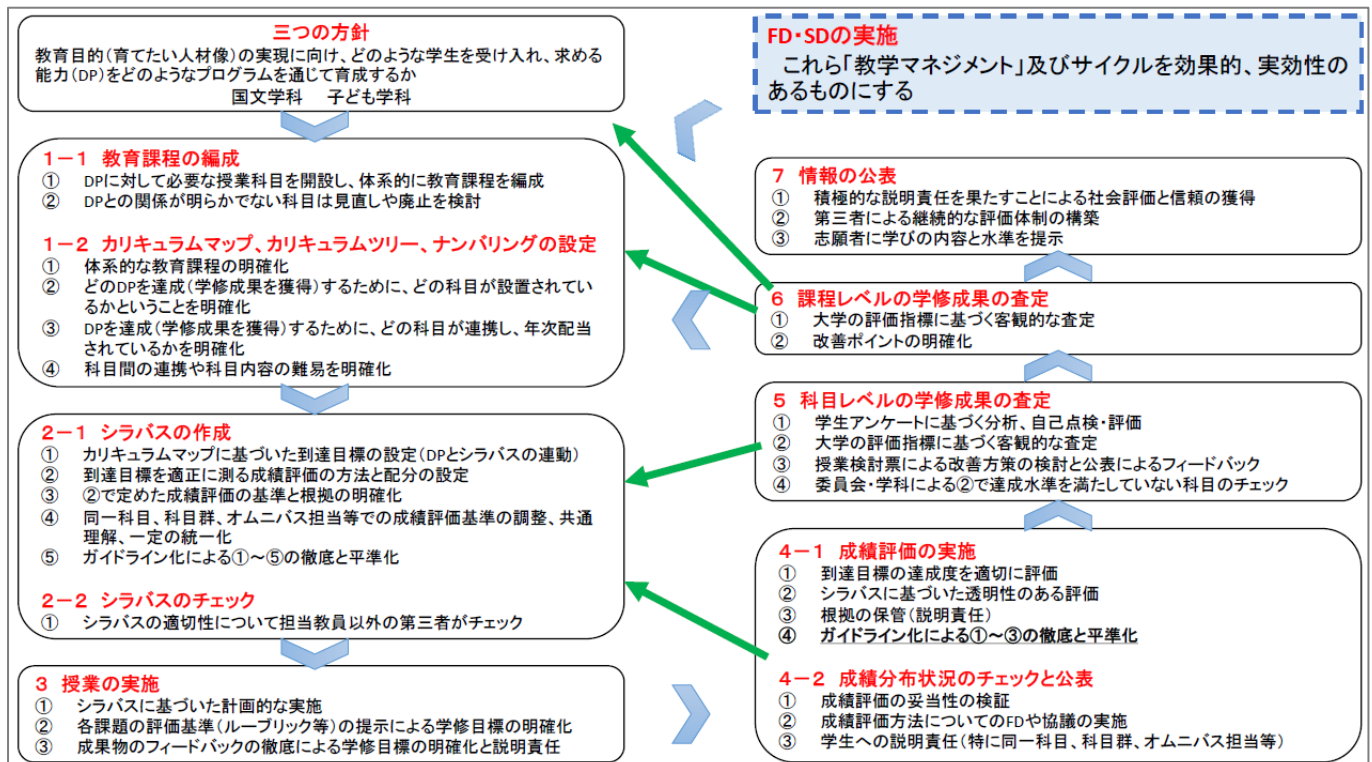
各レベルの査定は、2年間（在学期間）の教育課程での学修成果の獲得状況に基づく。

【図1】のとおり、n年度に入学して(n+1)年度に卒業した学生の学修成果の査定結果は、(n+3)年度の教育課程の検討やシラバス作成等に活用される。全学的な活用方法の流れは、【図2】のとおりである。

【図1】学修成果の査定及びその活用の流れ

n年度入学生 在学期間				n年度入学生 卒業1年目		n年度入学生 卒業2年目	
n年度		(n+1)年度		(n+2)年度		(n+3)年度	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
1年次修了時に学生による学修成果の自己点検を実施		2年次の学修・学生支援に活用		査定	(n+3)年度の教育改善に活用	査定結果の反映	

【図2】教学マネジメント体制



Ⅱ. 機関（大学）レベル

1. 実施方法

主に下記4つのデータから、学修成果の獲得状況を査定する。

- ①教育課程レベル及び科目レベルの学修成果の達成状況
- ②本学自己点検・評価報告書
- ③学生懇談会におけるヒアリング結果
- ④学生満足度調査

2. 実施者

滋賀文教短期大学 運営協議会（学長、副学長、学科長等により編成される全学的経営管理に関する委員会）

3. 査定結果の活用

教育研究活動及び教育課程の編成等における全学的な方針の策定に活用する。

Ⅲ. 教育課程（学科）レベル

1. 実施方法

教育課程として定められている各学修成果の獲得状況を、【図3】および【図4】に基づき査定する。

2. 実施者

滋賀文教短期大学 改革支援部・FD委員会

3. 査定結果の活用

【図1】および【図2】の流れに則り、下記のこと活用する。

- ①教育課程の編成
- ②カリキュラムマップの検討
- ③担任面談等の学修支援
- ④学生支援や課外事業等の計画
- ⑤授業科目「基礎力プログラム」のシラバス検討
- ⑥FD（授業内容や授業方法等の研修）及びSD（大学運営等の研修）の計画立案

4. 達成が望まれる水準

GPAは2.05～2.45、PROG結果は平均2.5以上かつレベル2以下の割合が50%未満、実習評価・就業状況調査・自己評価は5段階中平均3以上とする。ただし、特に子ども学科各コースの査定項目において対象者の数が5名以下の場合は必ずしも平均値とせず総合的に判断する。

【図3】国文学科で定める学修成果に対する査定材料

日本文学・文化及び日本語に関する知識	専門科目 GPA	漢字検定 2級及び準2級以上取得率	教養科目 GPA
考えや意見を発信できる力	基礎力プログラムⅣ GPA	就業状況調査 「他人の話を傾聴した上で自分の意見を伝える力」	PROG コンピテンシー総合
状況を把握できる基礎的な力	基礎力プログラムⅢ GPA	就業状況調査 「社内や部署内全体の状況を把握した上で働く力」	PROG リテラシー総合
課題を解決するための基礎的な力	専門ゼミⅠⅡ GPA	就業状況調査 「課題を発見し、自分なりに考えた上で、新しいことをする力」	PROG 対課題基礎力

他者と協働するための基礎的な力	基礎力プログラムⅠⅡⅢⅣ GPA	就業状況調査 「職場で適切な議論をする力」	PROG 対人基礎力
自ら学び続ける意欲や態度	PROG 對自己基礎力	就業状況調査 「就職後も自ら学び続ける力」	学修行動調査（自己評価） 自ら学び続ける力

【図4】子ども学科で定める学修成果に対する査定材料

保育・幼児教育に関する知識・技能（保） 小学校教育に関する知識・技能（小）	専門科目 GPA	実習評価 保育実習Ⅱ「知識・技術・援助（総合）」 教育実習（小）「基礎学力」	就業状況調査 「ピアノ演奏や弾き歌いの音楽の技能」
保育・幼児教育に関する使命感や倫理観（保） 小学校教育に関する使命感や倫理観（小）	実習評価 保育実習Ⅱ「職業倫理の理解」 教育実習（小）「児童・生徒の理解」	就業状況調査 「教育者・保育者としての使命感・倫理観」	学修行動調査（自己評価） 使命感や倫理観を持てたか
状況を把握できる基礎的な力	基礎力プログラムⅢ GPA	就業状況調査 「子どもの安全や健康について、全体の様子を把握して配慮する力」	PROG リテラシー総合
課題を解決するための基礎的な力	基礎力プログラムⅣ GPA	就業状況調査 「課題を発見し、自分なりに考えた上で、新しいことをする力」	PROG 対課題基礎力
他者と協働するための基礎的な力	基礎力プログラムⅠⅡⅢⅣ GPA	就業状況調査 「職場で適切な議論をする力」	PROG 対人基礎力
自ら学び続ける意欲や態度	PROG 對自己基礎力	就業状況調査 「就職後も自ら学び続ける力」	学修行動調査（自己評価） 自ら学び続ける力

IV. 科目レベル（各授業）

1. 実施方法

次のデータから、査定表で科目レベル（各授業）の学修成果の獲得状況を査定する。

- ①当該授業の成績
- ②授業アンケート

【科目レベルの学修成果の査定表】は、次に図示する。

2. 実施者

当該科目 担当教員

3. 査定結果の活用

主に次のことに活用する。

- ①授業検討票*の作成（当該科目の向上及び改善のための具体的アクション）
- ②当該科目のシラバス作成

4. 達成が望まれる水準

科目レベル（各授業）の到達目標の達成度が45%以上かつ科目GPAが2.05～2.45の間にあるときを望ましい水準とする。科目レベルの到達目標は、シラバスに記載している。

